

町田地区保護司会だより

第111号

発行 町田地区保護司会
会長 小山典子
編集 広報部
TEL 042(794)6791



多摩境駅前（京王相模原線）



子どもたちの健全育成のために

町田市教育委員会教育長 坂本 修一様

町田地区保護司会の皆様には、日頃から、地域における更生保護や犯罪予防などの活動に加え、学校教育に対しましても積極的なご協力をいただいております。特に、児童生徒の健全育成につきましては、「社会を明るくする運動」における作文コンテストや、駅頭・街頭での広報活動など、多くの取り組みを通じてご支援を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。

町田市教育委員会では、現在、「英語教育」や「ICT教育」などに力を入れ、子育て世代から「教育で選ばれるまちだ」を目指して、町田ならではの教育活動の充実に努めておりますが、そのような教育施策を進める上での前提にあるのは、何よりも、子どもたちが安全に、安心して学校生活を過ごせる環境の確保でございます。

近年、子どもたちを取り巻く社会情勢は大きく変化しております、トラブルや犯罪の形も多様化しております。SNSやインターネット、薬物等による犯罪被害を受けたり、犯罪に巻き込ま

れたりする子どもたちが少なくありません。

こうした状況の中、犯罪や非行のない安全・安心な地域の中で、子どもたちが健やかに成長できるよう、保護者、地域の皆様と学校、教育委員会が手を取り合い、警察や児童相談所等の関係行政機関と連携・協力していくことが益々重要になっております。

その一環といたしまして、町田市教育委員会では、これまでの、学校から一方的に地域の皆様に対して何かを依頼し、ご支援をいただくことから、学校と地域が連携・協働して、お互いに当事者意識を持って、いわば社会総掛かりでの教育の実現を目指す「地域学校協働活動」の推進をめざしております。町田地区保護司会の皆様におかれましても、地域の教育力の強力な担い手として、ご協力を賜りたいと思っております。

結びに、町田地区保護司会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



令和2年1月23日ベストウェスタンレンプラントホテル東京町田にて、東京保護観察所藤井首席保護観察官を始め多くのご来賓を迎え、町田地区保護司会の「新春の集い」が開催されました。

鈴木総務部長の司会、梅木副会長の開会の挨拶で始まりました。小山会長は、平素の当地区保護司会活動および多摩連活動への協力に謝辞を述べ



ると共に「平成28年再犯防止推進計画が閣議決定されて以来、再犯防止、再犯防止、寝てもさめても再犯防止と言われ続け、3年目となった昨年12月に、加速化プランが犯罪対策閣僚会議で決定されました。

私達も構成団体のひとつとして行政や関係機関の方々と一緒に、犯罪や非行をした人達の立ち直りに向けた取り組みを進めています。また、オリンピック・パラリンピックの年となり、外国からのお客様が日本で楽しい思い出を作れるように、安全・安心な住み良い町田を作れるよう活動していきたい。」と抱負を述べられました。続いて、中里副会長から令和元年度各賞受賞者の紹介が行われました。

次に藤井首席保護観察官から東京保護観察所長のメッセージの代読として

「今年は重要課題に再犯防止が挙げられます。我が国は成熟した世界へ向かう一方で、

個人は益々孤立を深めています。世界が未だ経験したことがない急速な少子高齢化を考える時、地域社会の将来像は今から想像できないほどの変化が懸念されます。この様に自助と共に共助・共生を大切に取り組んできた私達の更生保護の考え方

は、今以上に多様になってくると考えます。今年は社会を明るくする運動が70年目を迎える、再犯防止や安全・安心な社会の実現はもちろんのこと、活力も気力もある地域社会の未来のためにも、保護司会始めとする更生保護の活動は貴重であり、欠かすことができません。その意味からも今年は更生保護の広報に一段と取り組みたいと思います。」とご挨拶がありました。

更に、「町田市は、大型の児童館（子どもセンター）や普通サイズの児童館を造り、その他冒険遊び場等、子どもの居場所を整備すると共に、放課後の学校で遊ぶ“まちとも”も実施しています。子どもの居場所がたくさんあって色々な人と付き合い、初めて



子どもが非行にはしる可能性を下げるができると思います。“子どもを育てる、子どもが自分で育つ”といった環境を造る仕事を通じて、この街の犯罪が少なくなることを願っています。」「町田市議会としても皆様方と連携し、医療、教育、福祉それぞれがしっかりと連携を密にして、安全・安心なまちづくりを目指していきたい。」

「昨年1年間の町田警察署の犯罪検挙数は2,397件で、最悪だった2000年（平成12年）の約1万件から、20年余りで1/4にまで犯罪が減りました。これも保護司会の皆様のご努力の賜物だと感謝しています。町田警察署の現在の1番の課題は特殊詐欺です。昨年の逮捕者の中で、未成年者（子ども）の



占める割合が多く、更生保護には保護司の力が欠かせません。今年はオリンピック・パラリンピックがあり、是非町田は素晴らしい都市だなど外国の方に思ってもらえるように、保護司会の皆様に



は今年もご活躍していただきたいと思います。」「再犯防止に関連し、更生保護施設については、フォローアップの充実、更生保護の地域拠点の設置が掲げられ、検討が進められます。検討を進めるに当たり是非皆様方のご支援・ご指導をお願いします。」とご来賓それぞれのお立場からご祝辞をいただきました。また、時間の都合でご挨拶をいただけなかつたご来賓の方々を司会から紹介させていただき、第一部を終了しました。

第二部は、田中総務副部長の司会、町田地区桐友会中里会長の挨拶と乾杯の音頭で懇親会が始まり



ました。歓談や分区ごとのカラオケ、更に今年は新たな試みでお楽しみ抽選会もあり、大いに盛り上がって素敵な時間を過ごしました。最後に細野副会長の閉会の挨拶で散会となりました。

(広報部長 石川 一郎)

主なご来賓

東京保護観察所 首席保護観察官	藤井 淑子様
東京保護観察所立川支部 主任保護観察官	長澤 智子様
町田市長	石阪 丈一様
町田市議会議長	若林 章喜様
町田市地域福祉部長	神田 貴史様
町田警察署長	布施 賢而様
町田警察署生活安全課長	守重 正俊様
町田警察署生活安全課 少年第一係長	吉原 陽子様
多摩地区保護司会連絡協議会会长	小山 典子様
町田市青少年健全育成地区委員会 連絡協議会会长	井上 勉様
町田地区更生保護女性会会长	吉田 廣子様
更生保護法人 鶴舞会施設長	根本 英男様
町田地区更生保護事業 協力事業主会会长	細野 泰司様
町田地区桐友会会長	中里 猪一様

桐友会・保護司会合同懇談会

令和元年11月25日ラポール千寿閣において、保護司会の常任理事（連絡員含む）と桐友会会員との懇談会が開催されました。今年は保護司会が当番で、全ての準備を整えて桐友会の皆様をお迎えしました。

出席者は、保護司会から16名、桐友会からも16名の計32名で、4つの円卓を囲んでの和気あいあいとした会になりました。

町田地区保護司会小山会長の挨拶では、新人保護司獲得に向けた、第6ブロック保護司組織運営連絡協議会の提言に対する施策のひとつとして作成した小冊子「保護司の手引き」を紹介し、今後更なる対策が必要との話をされました。中里桐友会会長からは、新人保護司の発掘は桐友会の責務でもあり、大いに協力していきたいと話されました。

小川康夫様による乾杯の発声で懇談に入り、まずは桐友会の皆様の近況報告がありました。桐友会の方々は皆さんお元気で、特に98歳の西山勝様と95歳の笠原芳子様の健やかな気品あふれるお姿

には、積み重ねられた歳月の重さを感じました。保護司会からも近況報告がされました。楽しい時間はあっという間に過ぎて閉会の時刻となってしまい、各部長からの報告は次回のお楽しみとなりました。

閉会のことばは、平本璋一相談役で、お互いの会における今後益々の活躍と交流を期待して、散会となりました。

(広報部長 石川 一郎)



小山中央小学校朝礼講話

堺分区長 謙訪 賢一

今年度も、小山中央小学校の人権週間の一環として、岡部校長より依頼され令和元年12月2日に朝礼での講話を行いました。

毎回、保護司はどのようなことをしている人なのかを話しています。また、校長からの要望もあり、いじめについての話と先生方や家族の方から注意されたことを良く守ることの二つの話をしました。

先生方や家族の方が心配するのは、交通事故や誘拐、学校でのケガなどです。夏・冬休みになれば水の事故や山の事故が増えます。大人の人が子どもに注意するのは、長い間の経験で危険なことや危ない所が分かっていて、皆さんのが心配で注意するのだと話しました。そして私が経験したことを子ども達に紹介しました。

私は、鮎釣りが好きでよく川に行きます。よく川に行くと徐々に川の何処が危険かが分かってきます。ある日、夏休みで小学生4~5人が川遊びに来ていました。私が注意する間もなく、2年生ぐらいの子が川に堆積した砂に足を取られて、流されて行方不明になってしまった話をしました。

これは、日頃からお父さんやお母さんが子ども達だけで川に行ってはいけないと言うことを守らなかったからですと話して終了しました。

朝礼の講話も4回目となり継続することで、子ども達に少しでも保護司のことを知ってくれることを願っています。



社会参加活動に参加して

忠生分区 河合 正行

令和元年12月15日、晴れやかな秋空のもと忠生公園にて長澤主任官をはじめ、対象者5名と同伴者3名、町田警察署4名、町田市役所1名、保護司15名、更生保護女性会5名の総勢34名で社会参加活動（清掃作業）を行いました。

毎日清掃されている女性の方から、「ボランティアですか。今日はたくさんの方がいるので助かるわ。」と声をかけていただきました。彼らは、笑顔で応え、一生懸命落ち葉を掃いていました。さらに「若いのに偉いね。」との声に作業のピッチも上がり、予定より早く終了。そんな些細なやり取りでしたが、今日の目的はそれで達成されたと確信しました。

清掃活動終了後、更生保護女性会の皆さんを作ったカレーを皆でいただきました。

汗をかいたあの食事は、一層美味しいもので、おかわりする人が続出。

和やかな雰囲気の中、自然と話しが弾み「来年も来たい。」という意見もあり、みんなの笑いを誘いました。

彼らのすがすがしく屈託のない笑顔や行動を見て、社会参加活動とは、諸作業を通じて共に汗をかき達成感を共有しながら社会の標となる場であると痛感しました。澄み切った青空のように身も心も晴れやかな気分で大変有意義な一日となり、今後は、他の作業も視野にいれた社会参加活動になればと感じました。



鶴川分区だより

鶴川分区 田中 公夫

私たちの鶴川分区は町田市の東域にあり、現在分区の保護司は20名です。この鶴川分区には、小学校7校、中学校4校があり、分区内の多くの保護司は、更生保護活動の他、地域学校支援理事（スクールボード）、青少年健全育成の委員としても活躍しています。以前、分区役員会・分区会を開催する場所探しに多少苦労しておりましたが、最近、会員の幼稚園、鶴川市民センターの会議室をお借りすることができ、分区の会議の進行もよりスムーズに行えるようになりました。鶴川分区では、毎年地域懇談会を開催しており、昨年は第27回目を開催しました。この懇談会は、「地域の

分区
だ
よ
り

子は地域で見守っていこう」という趣旨で、先輩保護司の方々が町内会・自治会、その他関係団体と協働して始めたもので、講演、パネルディスカッション等を行っています。このように先輩保護司が築いた活動を継続して行っていることが鶴川分区の大きな特徴です。



分区だより

異世代で支え合う保護司活動 町田分区 宮野入 隆史

私たちの世代（現在45才）は、まだまだ全力で自らが仕事に向き合わなければならぬ世代です。

時間的に余裕がなく厳しいこともあります。周りの先輩保護司の方々が日々保護司活動をされている姿を見るたびに、自分はまだそこまではできないと思ってしまいます。

しかし、新任保護司を探さなくては将来の保護司制度そのものがままならない状況になると想え、私は自分の生活、家族・仕事に少し負担をかけると思いつつ保護司を引き受け、活動してきました。

保護司は、過ちを犯してしまった対象者の今後の人生に、大切な役割を担うと思っています。

ネットが普及した今日、犯罪も巧妙化かつ低年齢化してきている中で、諸先輩方と私たち世代の様々な立場から、対象者に支援していくならなと思います。

町田分区では、諸先輩方のご指導を仰ぎつつ、若い世代の柔軟性を活かし、笑顔で保護司活動が出来るよう支え合っていきたいと思います。



「海上自衛隊・横須賀地方総監部に 日本の防衛を学ぶ一日」 南分区長 鈴木 忠

12月4日、晴天。

他分区の方や更女、桐友会の方々のご参加も得て総勢19名。厳重警備の基地へ案内役の高橋三佐と共に進みました。

レクチャーでは地方総監部の役割、最先端の装備展開状況。四方を海に囲まれ世界でも有数の経済的排他水域を有する広範な国土防衛の重要性。そして、時代の変化の中、周辺国との微妙な関係など、日本の国土防衛の厳しい現状を実感しました。

その後、待望の護衛艦「たかなみ」見学。タラップを上ると、当番の士官・下士官が整列しての出迎えの敬礼。まず艦尾へ、そこではご多忙の艦長にも記念写真に納まっていただきました。その後、艦橋に上がり、艦長指揮席など本物に触れ、写真も自由に撮らせていただきました。護衛艦の性能やその防御システムなどの説明もありましたが、隊員各位の清々しい態度には、「さすが、日本！」と感心した次第です。

なお、この「たかなみ」が昨今話題となりました中東派遣の護衛艦で、2月2日にはアデン湾へとシーレーン安全確保のための情報収集に出航していました。

もう一つ後日談、基地を出た後ヨコスカ軍港めぐりと記念艦三笠を見学しましたが、我々が乗船したクルーズ船が「たかなみ」に近づいた時、その隣の補給艦において、乗組員が一斉に甲板に整列。ガイド嬢も何事かとアナウンスしていましたが、何と我々グループへの敬礼のための整列だったということをお聞きし、びっくりしました。



相原小学校6年 『薬物乱用防止教室』

令和2年2月12日、町田地区では初めての小学6年生を対象とした『薬物乱用防止教室』を堺分区・忠生分区合同自主研修として実施しました。

昨年度までは、保健体育の授業として地域の学校薬剤師が行っていましたが、ご年齢もあり引退することから代替講師の依頼をいただきました。私達保護司としても、薬物事犯の低年齢化が進んでいる昨今の状況を受けて、薬物の危険性を子ども達に周知し、子ども達を薬物の害から守る環境を整えるため、薬物乱用防止教室を開催いたしました。

学校のボランティアコーディネーターと連携をして2月の授業日程・タイムスケジュールなどの資料作成を行い、学校との情報共有をして、保健体育の授業として取り組めるようにしました。



当日の授業は、小山会長が講師を務め『ダメ！ゼッタイ！』東京都推奨のDVDを観賞後、小学生の子どもがいた覚醒剤中毒者の事例を取り上げ家族も被害者になることを話されました。常備薬や処方された薬も指示された用法・用量で服用しないと薬物乱用になり、健康を害すると言うこと等、一般でも余り理解されていないことも話されました。

授業中の児童たちは、薬物標本箱を見ながら指差して、こんなに沢山の薬物の種類がある事にビックリしていました。

薬物の誘いは、まず断ることが第一ですが、断れない状況があった場合でも相談する場所があるということを、パンフレットを見ながら確認しました。

終わりに、6年生からのお礼と、もっと薬物乱用防止について知りたかったとの質問の手紙が届き、改めて知ることの大切さと知らないことの怖さを感じました。

(広報部 横溝 一枝)

多摩少年院成人式に参加して 忠生分区長 坂倉 優

令和2年1月10日多摩少年院の成人式が行われました。

日差しは暖かく穏やかな晴天の下、「恵岡寮」から33名の新成人が成人式を迎えるました。

新成人は、お揃いのスーツに袖を通し、保護者や先生、来賓に見守られながら、胸を張って堂々と入場してきました。院長の式辞では、「皆さんには今まで多くの人に迷惑を掛けてきた。それでも最後まで支えてくれた家族や仲間に感謝して、これからは周りの人達を笑顔にし、幸せにできるような大人になってほしい。」とお話をありました。来賓祝辞では義家弘介法務副大臣からご自身の20歳のスーツにまつわる祖父との恥ずべきエピソードを交え「自分の弱さを認め、大人として、社会人として努力していくってもらいたい。」と話され、小俣勇人子ども家庭部長（八王子市長代理）からは「夢を持って欲しい。夢に向かって、立派な社会人へと一歩ずつ進んでいくって欲しい。」との祝辞をいただきました。

新成人一人ひとりが壇上に立ち、誓いのことばを発表しました。「多くの人に迷惑をかけたが、それでも自分を信じ支えてくれた両親や仲間に感謝する。これからは、他人を支えられる大人になる。」「母のように優しく、父のように大きな大人になる。」「夢を叶える。」等、反省の言葉、両親や仲間への感謝の言葉、自分の思いや決意の言葉等を思い思いに述べました。お祝いの言葉では、新成人の子どもの頃や家族写真のスライドショーを背景に、保護者からの心温まるメッセージの一部が職員の方から代読されました。

更に全員で「アンマー（詩：かりゆし58）」を合唱し、閉会の辞の後、新成人は最後まで凛とした立ち居振る舞いで退場していきました。



協力事業主会さん紹介

有限会社 エム・ビルド

代表取締役

長谷川 美由紀様



—どんなお仕事をされている会社ですか?

道路工事、舗装工事、擁壁工事、下水道工事等土木工事全般です。

災害時用として、町田市内小・中学校にマンホールトイレを設置しています。プールの傍らに設置していますので見つけてみてください。又、町田警察署前から旭町交差点までの道路舗装工事も当社で施工し、優良工事で東京都より表彰を受けました。

—初めての人でも出来ますか?

スコップを持つことができる人なら誰でもできます。測量のスタッフ（箱尺）を持つ人、ロープの片方を持つ人等簡単な仕事はいくらでもあります。

道具の名前、職業語は、まるで異国の言葉のように聞き慣れないかもしれません、毎日使っていれば直ぐに覚えてしましますので心配はいりません。ベトナムから2名の技能実習生が来ていますが、2年目で現場を任せられるほど技術が身についています。

この仕事が面白いと思ってもらえた技の吸収が早く、5年で監督にもなれます。

—アピールポイントは何ですか?

福利厚生が充実しています。慰安旅行、バーベキュー、新年会等イベントが沢山あります。もちろん、寮も完備しています。従業員の奥様の誕生日には、花束のプレゼントを贈っています。女性社長ならではの気遣いをしています。町田市の“仕事と家庭の両立推進企業賞”もいただきました。

現在、26才～67才まで13名の社員がいます。定

年後の方も歓迎しています。心身共に健康に働いてもらえる環境作りと健康経営を心がけています。

—なぜ協力事業主に?

「罪を犯してしまった人達が地域へ戻って来た時に、仕事が無かったら、住む所も無く、生活が成り立たない。これは助けなくちゃいけない。」まずそのことを強く感じました。そして、普通の人でも色々な考え方や行動パターンがあって、なかなか仕事を継続して取り組んでもらうことが難しい時代です。この子は普通の子、この子は出て来た子と分けること自体無意味です。

うちでは、新人が入ってきたら、新人教育の為に現場数を減らし、新人に教える時間を作っています。今、当社は人的にも物的にもゆとりがあるので、人育てに時間を当てられる環境が整っています。よく面倒を見ることによって、その人の特性に合った仕事を割り当てられ、効率的に仕事ができるようになります。

マンホールカッターの当社の技術が優れていると評判になり、多くの依頼をいただいている。技術を丁寧に社員に教えることがどんなに大切か、それが会社の宝となる人材を育てるポイントだと思います。

“目配り、気配り、心配り、なくそう危険、増やそう笑顔”をモットーに、これからも安全第一、無事故更新を続けていきます。

(広報部 中島 寿子)

保護司エッセイ

「歌は楽しい」

鶴川分区 名取 紀美江

私は週一でコーラスに通っています。

始まりは、薬師中のPTAコーラス部。その中学校の校花「ききょう（英名 ベルフラワー）」から、団名を「コール・ベルフラワー」としました。そして16年が過ぎ、現在メンバーは18人です。

指導者は、PTAコーラス時代からずっと保護司会の仲間の鶴川分区佐川雅夫先生で、当時は副校長でした。

先生は、同じミスを繰り返す私達にジョークを交えながら、温かく根気良く、時には厳しく指導してくださいり、とても感謝しています。

昨年、第三回演奏会を開きました。年を重ねると歌詞を覚えるのが難しく、動きが付くとなおさらです。演奏会に来てくれた友人から、「歌も良かったが、振りがみんな少しづつずれているところが良かった。」と誉め(?)されました。そうなんです、一度にふたつのことは無理なのだと思います。

終わってみれば、楽しかったことしか心に残っていません。やはり、歌うことは楽しい。ここまで続けられて幸せだと思います。指導者の方々にも恵まれ、素敵な仲間とも出会えました。ホント、ベルフラワーは仲が良い。これは、どの団にも負けません。

次の目標は、第四回演奏会です。



法務大臣表彰を受章して。



忠生分区
野口 リヨ

この度、思いもかけず法務大臣表彰を受章いたしました。これも一重に皆様方のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

平成9年5月に拝命してからあつという間に23年間が過ぎ去った感じがします。当時は子育てが一段落したとはいえ、専業主婦の私に保護司という重要な任務が務まるのかと、とても不安でした。これまで続けられたのは保護観察所の方々や先輩保護司のご

指導があったことに加えて、良いお仲間に恵まれたからだと思います。また、夫（弁護士）も仕事柄、更生保護制度は刑事政策上、大変重要であることを説き、いつも私を応援してくれました。

今後もこの表彰を契機に、微力ながら一層努力してまいりたいと思っております。



忠生分区
平塚 清海

令和元年11月法務大臣表彰をいただきました。

思いおこせば平成10年9月保護司に拝命を受け、先輩、仲間の皆様のご指導のもと、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

新任のご挨拶



忠生分区
藤野 慶正

この度、令和2年2月1日付で保護司を委嘱されました藤野慶正（よしまさ）と申します。寺院の住職をしております。今年、50歳になったばかりの若輩の身に務まるのかという不安もありますが、先輩方にご指導頂き、前向きに努力して参りたいと思っています。社会を生きていく中で、人との関わりは外せません。やむをえぬ事情により犯罪に手を染めてしまった方でも、更生の道は必ずあるはず。相手に寄り添う気持ちを大切に対処して行く所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



忠生分区
吉岡 俊幸

令和2年2月1日付をもって、保護司を委嘱されました吉岡俊幸と申します。生糸の町田っ子であり、教職37年間の中で、本市では初任校を含め延べ19年間お世話になりました。児童生徒の健全育成と今後の使命である更生保護は、表裏一体のものであると考えています。また学校づくりの上で、子ども・家庭・地域との良好な関係づくりが欠かせませんでした。このことを踏まえ、諸先輩方のご指導を賜りながら更生保護や地域貢献に努めてまいります。宜しくお願い申し上げます。



南分区
白岩 満智子

出身は北海道です。18歳の時警視庁警察官を拝命し上京しました。町田に住んで約40年になります。子育てのため途中退職しましたが、その後も嘱託員など警察関係の仕事をし、昨年春に定年退職いたしました。保護司の仕事は全く未知の分野で不安ですが、少しでもお役に立てるならばと思いお引き受けいたしました。

微力ではございますが、諸先輩方のご指導を頂きながら一生懸命努力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

退任のご挨拶



南分区
八木 隆幸

私こと、平成14年2月1日に委嘱を受けてより令和2年1月31日付をもちまして、18年間の保護司生活を卒業いたしました。この間、温かいご指導のもと、対象者と向い合う事ができ、保護司としての一端を担わせていただき心より感謝申し上げます。有り難うございました。会の更なる発展をお祈り申し上げます。

編集後記

今号の「多摩境駅（京王相模原線）」で、町田市内の駅シリーズの巻頭写真は最終回となります。次号からは、新たな巻頭写真シリーズを企画します。何か面白い写真がありましたら是非広報部までご一報下さい。また、今年はオリンピック・パラリンピックが開催されます。安全・安心な住み良い町田を目指して、広報部としましても更生保護の広報活動により一層取り組んでいきたいと思います。

(広報部長 石川 一郎)